

目次

- P1 重監房資料館★前橋出張トークイベント開催のお知らせ
- P2 2024.10.27 前橋出張トークイベント開催によせて
- P3 企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」 絶賛開催中！！
- P4 2024年度 来館者統計
- P4 お知らせ
- P4 お客様の声（来館者アンケートより抜粋）
- P4 ご利用案内・アクセス

重監房資料館★前橋出張トークイベント開催のお知らせ

「弐雄二さん、藤田三四郎さん、山下道輔さんの思い出を写真で語る」  
～栗生楽泉園、重監房復元事業と発掘調査、そして多磨全生園～

日時 2024（令和6）年10月27日（日） 13時30分～ 15時30分（開場13時）

参加費 無 料（先着100名様）

会場 上毛新聞社上毛ホール（前橋市古市1-50-21：J R両毛線・上越線「新前橋駅」より徒歩4分）  
※会場には駐車場がありませんので、お車でお越しの際は、ホテルラシーネ新前橋駐車場など、近隣の駐車場の利用をお願い致します。

登壇者のプロフィール

黒崎 彰（写真家 日本写真家協会会員）



くろさき・あきら  
新潟県小千谷市生まれ。2002年多磨全生園の山下道輔さんと知り合う。山下さんを通じて、栗生楽泉園の弐雄二さんとも出会い、交誼を続けた。2013年夏、重監房跡の発掘を記録に収め、翌年の資料館開館にむけて、出土遺物の写真撮影にも協力。2020年重監房資料館は企画展で黒崎彰写真展を開催。現在、全国のハンセン病療養所を記録する撮影旅行を鋭意継続中。

角田隼也（上毛新聞社総務局総務部）



つのだ・しゅんや  
群馬県吾妻郡東吾妻町生まれ。2003年に栗生楽泉園を初訪問する。以来藤田三四郎さん、弐雄二さんとも親交を深めて、同時に国内外のハンセン病療養所を訪ねる。2010年上毛新聞社入社。記者としてハンセン病問題について取材し、重監房復元をスクープ。資料館開設や発掘調査についても記事を書く。2019年より現職。趣味は釣り、1児の父。

司会・進行：黒尾和久（重監房資料館部長）

主 催：重監房資料館 後 援：上毛新聞社

お問合せ 重監房資料館（担当：黒尾・鎌田・香川） 電話0279-88-1550

★「トークイベント」の事前学習に、上毛新聞社ポッドキャスト「うまがまう」（2024年5月3日配信）を是非、ご視聴ください。「#108ハンセン病を直視して 草津町の『重監房資料館』開設10周年」

出演：黒尾和久、聴き手：角田隼也・日野原明



## 2024. 10. 27 前橋出張トークイベント開催によせて

群馬県でも吾妻郡草津町に立地する「重監房資料館」では、人口が集中する前橋・高崎地域にお住まいの方に、より広く、深く栗生楽泉園や資料館の活動を知ってもらい、来館していただけるようにすることを開館以来の課題としてきた。

重監房資料館は、本年4月30日に開館10年の節目を迎えた。そのタイミングで黒尾が、上毛新聞社ポッドキャスト「うまがまう」に出演する機会を得た。

聴き手役の一人であった角田隼也さんは、重監房資料館の開館前後に記者として、発掘調査や開館準備の経過を丁寧に取材しており、重監房復元に骨を折られた笈雄二さん、藤田三四郎さんとも学生時代から懇意にされていた。現在こそ総務部に籍をおいているが、黒尾も発掘現場に足繁く通う角田記者の姿が記憶に残っていた。

番組で久々の再会となったわけだが、話題が生前の笈さんや藤田さんに及ぶと、角田さんは涙をこらえきれなかった。そこに深い想いがあることを私は知った。そして間もなく、角田さんも数多くの写真記録を残しているであろうことに思い当たった。

すると角田さんの記録と写真家・黒崎彰さんの作品をコラボレーションしたら面白いのではないかと閃いた。黒崎さんは、多磨全生園の山下道輔さんと



天真爛漫（山下さんと笈さん） 黒崎彰さん撮影



藤田・笈さんと共に 角田隼也さん提供

知り合ったことを契機に栗生楽泉園の笈雄二さんとの交誼を重ね、笈さんの信頼を得て、その要請をうけて、重監房再現および跡地発掘の写真を撮影したプロ写真家である。その作品群は今、重監房資料館の財産となっている。

角田さんの想いのつまった記録写真と黒崎彰さんの作品をスクリーンに映し出して、一緒に重監房復元と跡地の発掘調査や、その事業を支えた笈雄二さんや藤田三四郎さんの思い出を語る「トークイベント」を開催できれば、ご来場のみなさまと素敵な時間と空間を共有できるに違いないと思い立った。

問題は前橋・高崎地域での会場探しということになった。そこで上毛新聞社の角田さんに相談をもちかけたところ、思いがけず上毛新聞社の後援が得られ、新前橋駅至近の上毛ホールを借りることができた。この幸運に深く感謝申し上げたい。

前橋・高崎市とその周辺にお住まいの方のご光臨をお待ちしています。

(黒尾和久)

## 企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」 絶賛開催中！！

開催から2ヶ月が過ぎ、そろそろ折り返しです。現時点で新聞社の取材も多く、1500人を超える方にご来館いただいております。

改めて、企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」の紹介をさせていただきます。本展は【重監房の廃止】【重監房廃止後の三つの事件】【特別法廷】【菊池医療刑務支所】【今もなお続く問題】の5つの章で構成しております。ハンセン病患者は、らい予防法により一般の刑務所や留置場に収容されることはありませんでした。第2章の【重監房廃止後の三つの事件】では「1.16事件」「警察官刺傷事件」「菊池事件」を取り上げ、罪を犯したハンセン病患者がどのような処置であったか、そして第3章の【特別法廷】で、この3つの事件の刑事裁判が「特別法廷」で行われたことをご覧ください。「特別法廷」の調査の結果、2016年に最高裁が謝罪をしました。さらに、2020年には「菊池事件」の再審を求める訴訟において「特別法廷は違憲」であるという判決が出ました。しかし、遡ること約70年前の1950年7月に開かれた「1.16事件」の公判記録を読むと栗生楽泉園総和会（現在の入所者自治会にあたる組織）会長の藤田武一は日本国憲法とらい予防法の矛盾点をついた発言をしています。当事者である患者たちは、基本的人権を掲げる日本国憲法を非常によく学んでいたと見受けられます。

「菊池事件」は、ハンセン病の疑いをかけられたFさんが証拠不十分のまま逮捕され、「特別法廷」での裁判の結果、死刑が宣告され処刑された事件です。Fさんの死刑が執行されてから62年経つ現在も再審請求に向けての闘いが続いています。しかし、死刑執行後の事件に対しての再審請求の壁はとても高いと言われております。ここ数年、裁判所・検察・弁護士の三者間で協議が行われており、10月1日には当館館長である内田博文の証人尋問が予定されています（本原稿は9月下旬に執筆）。この証人尋問により、再審への道が少し見えてくるのではないのでしょうか。

第4章の【菊池医療刑務支所】や、先述の「菊池事件」に関する貴重な資料を菊池恵楓園や菊池恵楓園入所者自治会の協力のもと当館で展示できたのは本展の目玉と自負しております。また、本展のために菊池恵楓園入所者自治会長の志村さん・副会長の太田さんから伺ったお話を、展示室で常時上映しております。このような経緯から、8月10-11日には菊池恵楓園から自治会副会長の太田さんと学芸員の原田さんにご来館くださりました。

以上のように「菊池事件」や重監房の「特別病室」問題は現在に続いておりますし、「特別法廷」

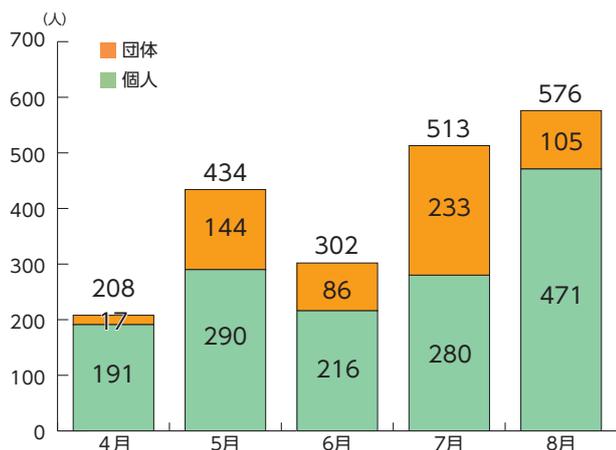


新聞社の取材に対応中の太田副会長

問題は再度検証が必要です。そのことを志村会長・太田副会長がわかりやすくお話くださっておりますので、これらの問題を自分事として問う時間を展示と共に体験していただければ幸いです。

11月24日（日）、12月20日（金）にギャラリートークを予定しております（詳細は当館ホームページをご覧ください）。皆様のご来館を切に願っております。（鎌田麻希）

## 2024 年度来館者統計



## 2024 年度入館者数 (4/1 ~ 8/ 末時点)

延べ	2,033 人
1 日平均	15.5 人
開館以来延べ	53,685 人

## ホームページアクセス数 (4/1 ~ 8/ 末時点)

2024 年度	16,724 件
開館以来延べ	456,123 件

## お知らせ

### ■2024年度企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」

#### 担当学芸員によるギャラリートーク開催について

当館第2展示室にて、本展担当学芸員による展示解説を、下記の日程で行っております。開始時刻前にお集まりください。(事前申込不要)

- 10月5日 (土) 11:00 ~ 12:00
- 11月24日 (日) 13:30 ~ 14:30
- 12月20日 (金) 13:30 ~ 14:30

皆さまのご来場をお待ちしております。

## お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎夫 (64 才) は「重すぎる」と言ってうずくまってしまうました。私共は障がい者とその家族です。「明日は我が身」とさえ思えました。病を負った人に対し、共同体、国家ぐるみで排斥して、人権をうばい、虐待する…。恐ろしくてたまりません。障がいを負い、今もたたかっています。障がいを告白したとたんに役職をはがされました。(東京都、59 歳・女)
- ◎人間として接していたのか、いやそうではない。人間ほど残酷な生き物はいないと思う。(茨城県、56 歳・男、会社員)
- ◎回数を重ねるごとに自分を振り返る事が出来る場所なので、思う事があればまた来ます。(中之条町、48 歳・女、会社経営者)
- ◎ハンセン病だけでなく、その他感染症のような病気を患った場合、人々の偏見や恐怖から起こる差別、迫害等、精神的メカニズムにフォーカスして、人間には誰もそのような行動をとる可能性があるということ、デマやうわさに惑わされることなく、真実を見極める正しい知識を得ることが大切であることをアピールするのも良いと思う。今回のコロナは世界で流行、幅広い年齢層や性差に関係なく罹患した者が多かったため、偏見は少なかったと思うが、もし、限定的地域や限定された年齢層であったなら、ハンセン病のような手段が行われる可能性もあったと思う。(東京都、女、医療従事者)
- ◎誤情報がどうして流れてしまったのか、正しい情報がまわるのが遅く、どうしたらはやく正確な情報がたくさんの人に届けることができたのか調べたいと思いました。コロナの時も、間違ったことが SNS などにながれ、差別された人もいた。どうしたらこのようなことをなくせるのか考えていきたいと思った。(草津町、15 歳・女、高校生)
- ◎忘れてはいけないことだし、人間は知らないことで差別する。それを考え、思い出すために、ここは必要だと思います。(東京都、52 歳・女、ソーシャルワーカー)

## ご利用案内・アクセス

- 開館時間■ 4/26-11/14 (通常期) : 9:30 ~ 16:30 (団体は要予約)  
11/15-4/25 (冬期) : 10:00 ~ 16:00 (団体は要予約)
- 休館日■ 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日
- 入館料■ 無料
- 交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分  
草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分  
車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分  
(草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の未舗装路をお入りください。)

## 重監房資料館「くりう」第 26 号【季刊】

発行日：2024 (令和 6) 年 10 月 1 日 / 企画・編集・発行 重監房資料館 / URL : <https://www.nhdm.jp/sjpm/>  
〒 377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL : 0279-88-1550 FAX : 0279-88-1553